

軍用記

三

和書門	一七三〇八	函	二	冊	七
類	號	架	架	架	架

和書	一七三〇八	冊	二	架	五
類	號	架	架	架	架

內閣文庫		
番號	和	17348
冊數	7 (3)	
函號	154	13

新刊
武



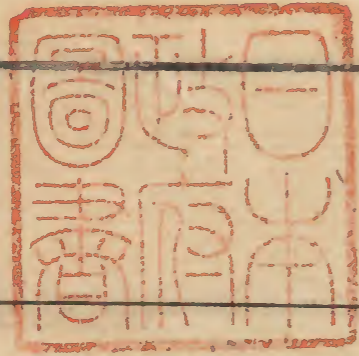
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





軍用記第三

目錄

鎧威 大意

六ヶ条

鎧威 定法

九ヶ条

草威之部

緋威

黒草威

薰草威

赤草威

洗草威

笈繩目

小櫻威

小櫻黄返

蓝白地黄返

品草威

淺草文庫

赤草黃系

綾威之部

唐後威

鍊鐸威之部

鍊鐸威

系威之部

紅梅威

黃系威

白系威

黑系威

赤系威

萌黃系威

紫系威

紺系威

藤系威

草摠威

褐色威

系緋威

卯花威

澤瀉威

櫻鳥威

敷目威

色々威

紫裳威

紅裳威

耳裳威

紺裳威

付惣テ裳濃ノ事

黃摠白

妻白

肩白

付惣テ白ノ事

肩白

妻取

腰取

大荒目ノ部

大荒目 三枚草大荒目
金交大荒目 一枚交大荒目

鉄胴ノ部

鉄胴 カラ胴 包胴

相生相刻鎧 四姓鎧

菱縫扱 威箔

離物 縫延

着長 具足

仲綱排威ノ歌

昔具足當世具足

腹卷 并圖 胴丸 并圖

當世具足圖 鉄胴圖

腹當 鉄鉢

袖驗 笠印

具足ノ守 鎧フ卜言詞

鎧着吉方 脚鎧召次弟

馬喇其外凶兆ノ事

人ノ鎧ヲ見ル事

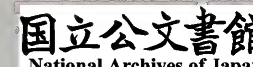
大將ノ脚鎧ヲ着ス事

甲曹ノ字訓

武具ノ字用

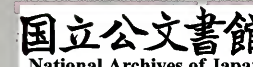
の軍物倍よまゝの威毛の名又いつり補體
 ねど大剛記保胤といひつゝ特七人の文のよ一あしを伴
 判一いつり又いつり保胤の文を伴していつり
 ひれ保胤の文を伴していつり
 一系院の名は代々子孫に傳へられしを以て考ふるは
 後述の威毛の名は代々子孫に傳へられしを以て考ふるは
 捕正成が金別山の株の磔也は甲冑ハさ取
 べきを以てよとす毛をこのむべうと
 いりげもれどよかてくハ合戦の用ハ
 づー威毛をこのむハせしむるの事ハ
 後述田史野人もよきハ後述をハハハ人

がうもよく見ゆるごとく弱武者も體のねど
 毛ようごらまそ武者ありさもつよげよん
 づーまうてや後武者のたまふはよも
 るいよくしきさのどくもいさましくも
 づー何をもそ水飲の眼をねどろろ一氣を
 りぞも勇威をたさるるの體あるはれが
 らそおど一毛もハいふまそ一途はそ
 づーふつうは捕り頼ハれよきをそぞ
 てまも威毛のうごり力ををいま一めたる云
 ぞふあり



目を射るべきは、さういふ説あり、きたあき
 んたり、敵よあつたをよき、武者よ、目を射
 移る、よきん、これ、武士の面目あるべし、さういふ
 つけぬ、さういふを、れ、さういふ、思ふ、戰場へ
 出た、さういふ、居て、敵、果、さういふ、か、さういふ、休
 し、か、き、れ、さういふ、あ、さういふ、あ、さういふ、あ、
 さういふ、さういふ、務、あ、さういふ、さういふ、さういふ、
 威、毛、の、さういふ、さういふ、折、け、何、れ、さういふ、古、何、天、
 或、ハ、何、が、さういふ、大、お、何、が、さういふ、云、體、エ、ま、れ、さういふ、
 何、方、の、さういふ、か、じ、よ、務、あ、さういふ、さういふ、あ、さういふ、
 さういふ、由、來、を、委、ね、く、の、さういふ、説、い、さういふ、あ、さういふ、

さういふ、き、古、さういふ、曾、さういふ、さういふ、さういふ、彩、よ、作、お
 した、さういふ、説、あ、さういふ、有、さういふ、さういふ、さういふ、
 この、何、と、い、ふ、れ、さういふ、ハ、札、の、形、を、何、の、形、よ
 作り、何、と、い、ふ、ぬ、り、何、と、い、ふ、の、毛、よ、て、れ、さういふ、何
 さういふ、の、身、系、を、引、べ、さういふ、あ、さういふ、札、の、形、れ、さういふ、系
 の、さういふ、身、系、木、を、さういふ、合、さ、お、さういふ、毛、の、名、を
 さういふ、説、さういふ、さういふ、の、さういふ、古、さういふ、さういふ、
 さういふ、皆、私、の、他、さういふ、あ、法、説、一、改、め、さういふ、
 體、れ、さういふ、毛、の、定、法
 札、の、形、ハ、割、小、札、を、本、式、さういふ、さういふ、あ、り、さういふ、さういふ、
 形、よ、さういふ、ハ、異、説、あ、り



札のまはる漆はぬるあり是古の定式あり
 ちやく金箔はもたむ之は銀箔糸漆を
 漆をまかすて漆を厚敷あり
 札のまはる漆はぬるあり是古の定式あり
 漆を武あり古葉あり格ありの
 威毛の名目ハ系威ありハ系糸の色牙を
 びく名づくるあり札ハ漆漆は金箔は
 ても札づく毛の名ハ札の色形はかり
 りあり
 鑽の耳糸をまかすの糸もハ耳糸ハ
 啄木の組を木式にさる之列毛の名ハ畧

二三の糸は
 毛しつして
 二つは
 人々もこれ
 啄木の耳糸
 まで二三ハ
 ありぬ

儀あり耳糸ハ啄木の糸を用るすハは
 組のよらひを子孫に傳つて是古のよらひ
 人の性ハありぬ之ハ鑽もても啄木もても性
 ハありぬ之を札をさるあり啄木ハ之の
 糸を組交する相あるハ何色ともかづ
 ぬぬ性ハ合ひぬ之を札をさるあり
 鑽の組の糸ハ一面ハ漆草もて包む之を
 法走といふありは法走の草ハ何ともあれ
 威毛の名目ハハかりぬありを代の鑽ハ
 法走あり組さるあり古の鑽ハ部りあり
 を代の鑽も古のよらひは漆して威づく

草摺の袖ホ
のひし隆の
ふのより威
毛の名目
明るるを

胃の肩底吹返禮の袖の冠の板太の草摺の袖端
付草の草のまは何の色よてもたしそまかき
れとし一毛の名はまき袖と草摺はありそまは
細のまは活走のほよて包むか又つたうしあ
の方ハ母羅衣を掛まハつすうくするまは
時袖と草摺りあり依て古人れど一毛の
名を付するまは手袖と草摺りあり細の
まは地まは陸まあり地まはまはまは細ま
まどあまは細まは細まは細のまはまはま
まはまはまはまはまはまはまはまはまは
禮のまは細まはまはまは細のまは細のまは
のまはまはまはまはまはまはまはまはま

目よりうさしあ

胃のれど一毛のまはまはまはまはまは
のまはまはまはまはまはまはまはまは
胃のれど一毛のまはまはまはまはまは
右九ヶ條のれど一毛のまはまはまはまは
まはまはまはまはまはまはまはまはまは
のまはまはまはまはまはまはまはまはま

草威の部

上古のよりうさしあ
おとまはまはまはまはまはまはまはまは
し草威ハ深まはまはまはまはまはまはまは

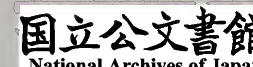
めを合せ礼おしけるるるけあるの毛を又よ、五十素人の
 毛の質細をどぬ、その中、は後多型、織たごしの、よらひの
 袖の洗草、もわありぬ、人々又へり、は、おのちの、毛、は、あ、く、深、よ、し
 離れ、の、細、を、あ、ひ、た、が、し、て、ま、ま、く、あ、る、べ、い、と、い、ふ、あ、り
こま、く、ま、た、紅、の、う、ろ、を、洗、う、と、い、ひ、で、お、け、い、ひ、こ、る、あ、り、○、ま、株、日、洗
草、遣、平、家、物、沿、同、長、つ、年、盛、衰、記、を、平、記、平、治、物、沿、系、考、保、元、食
家、儀、式、兵、制、庭、刑、参、考、太、平、記
あ、よ、ふ、ま、ま、の、尚、記、抄、に、ま、ま、の、ま、ま、

笠繩目ねごし、の、括、繩、目、括、素、目、ふ、あ、り、あ、り、い、ふ、あ
伏、繩、目、と、も、書

草よて威まき、ふ、あ、り、あ、り、い、ふ、あ、り、白く、厚ま、と
 らん、の、ま、じ、を、つ、ら、形、は、深、く、草、あり、毛、草、を、た
 て、よ、細、く、裁、て、い、ま、の、づ、ま、く、の、ま、細、の、め、く、あ
 ひ、ま、せ、の、糸、の、や、う、よ、ん、あ、の、さ、ね、ふ、う、繩、め、と、云
 あり、名、ね、ご、し、よ、い、ふ、あ、り、あ、り、あ、り、威、ハ、あ、り、う、ま
 ね、ご、し、よ、い、ふ、あ、り、い、ふ、あ、り、其、株、日、笠、繩、目、の、よ、ら、ひ、威、之、表
記、平、治、物、沿、平、家、物、沿、同、長、門

本、家、物、沿、を、平、記、あ、り、の、図、あ、り、ま、ま、の、ま、ま
こ、ま、ま、の、尚、記、抄、に、ま、ま、の、ま、ま、

小極草ねごし、又、畧して小ざら、威とも云あり
 小ざら、草、を、い、ふ、草、を、ね、ご、す、こ、ざ、ら、草、を、
 藍地、は、白、く、ち、ん、さ、く、極、の、む、が、を、深、お、た、る
 草、之、名、ね、ご、し、よ、い、ふ、小、ざ、ら、威、と、い、ふ、お、り、免、ハ
 あ、り、ま、ま、の、草、ね、ご、し、其、株、日、小、極、威、兼、經、記、庭、訓
禮、系、兵、制、庭、刑、只、素、性、末
高、籠、草、子、赤、松、物、沿、あ、り、の、図、あ、り、ま、ま、の、ま、ま
こ、ま、ま、の、尚、記、抄、に、ま、ま、の、ま、ま、
 小ざら、草、を、ま、ま、よ、い、ふ、鏡、と、い、ふ、小、極、草、を
 藍地、よ、して、極、の、花、を、ま、ま、よ、深、く、草、を、威
 ね、ご、す、い、ふ、草、よ、い、ふ、ま、ま、の、藍、地、白、紋、の、小、極
 草、を、ま、ま、よ、深、返、ま、ま、を、い、ふ、た、の、ご、と、く、深、く、せ、ハ、地



紫草威藍草威ゆきぶなれど一思草威あざの
名そのれど一たる草を以て威毛の名をよみた別
の子細ありくま一くいの志るまよらす

右のゆ一纏めふざくさ草木のれど一毛ハ皆
かされど一ゆををせさくぬ人の系れと一の
ゆとたもひあやまり志りのとあざけつらくの
系れど一を新他一志のくを系よ合せんと
しきさぬくこ一ゆ一ゆ一ゆの偽後よりはさふ
づうしよあよさるるを和の草の後果ハ古き禮の
威毛をこく志るまよと和の他をこくあざを庚辰
草威藍草威ふきぶなれど一思草威あざの
名そのれど一たる草を以て威毛の名をよみた別
の子細ありくま一くいの志るまよらす

後威の部

唐後れど一とらふの唐去より後りくさる後を細
くゆきりまよとまよひて系威のごとくたすここの
品くあるべ一何色の唐後威とらふべ一唐去の
唐後をふくくくまよとらふ禮末と舊礼よ
もつてくさり系威よあやれど一とらふゆはまよ
これハ志るまよとらふあねどもんたさへあるゆとら
一きくあり

練律威の部

練律威ハ練律を厚く細くたしきまよとれとまよあり
何この練律威とらふべ一とらふ極く好まよとらふべ一練

練律ハまよ
えららのめ
あり

律ハ律ハ生まよハ律ハ律名よてわりのるハ殊律
とつ之ハ殊律ハもつけ名威ハ殊律れと一とつ名ハ
あま

系威の歌

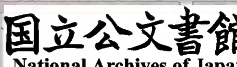
紅梅威黄志れど一白志威了思系威赤系威黄系
れど一思系威解系威ホハ別の子細あり一思系を
の系よしてれど一とつ之ハ殊律ハもつけ名威ハ
あま
黄威とつハふド志志れど一とつ其系の系よて威
とつ黄志志れど一とつハ長くしてつひもくきとつ
界一と黄れど一とつ之ハ殊律ハもつけ名威ハもつけ名威を界一と黄

百首正秀

順徳院

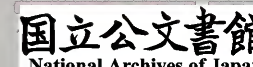
一トめりて一トをらの村のそ
トもみち又か
ちつまを林能
とつ之ハ殊律ハもつけ名威ハもつけ名威を界一と黄
一首の中一
氏ア以爲家
あり双山さ
るの峰のとき
の系よしてれど一とつ之ハ殊律ハもつけ名威ハもつけ名威を界一と黄
紅梅のそト
和のそト
まよハ律ハ

黄れど一とつハ長くしてつひもくきとつ
界一と黄れど一とつ之ハ殊律ハもつけ名威ハもつけ名威を界一と黄
黄れど一とつハ長くしてつひもくきとつ
界一と黄れど一とつ之ハ殊律ハもつけ名威ハもつけ名威を界一と黄



うらさともりあは務とつあひよらりあして軍持
 りきりし月るこのちんさといふあやまり之福をハ
 藍をこくして緋よりも粒まぐりまぐりありしを
 をさへ古きよそめて初を志のまのかちをりんる
 よりもぬれくささきて形おひうふ又 秋東ハ志
 磨 福 へのちうあは福ともあひそめくささハ志
 るをあたるとあり古棧磨の圓飭磨那不南野
 里よりくかちをさよく深なるあさうぬのかちとて
 名物よしてまじくおけささうちうさといふゆり
 つよしへ呉西より福布として毛たりの布を渡し
 くるその布のさよ似るまハ福と名付たりとを

申侍りし補福といふさの西土のちよか何さよしも
 赤福とあはる茶をばま福とまじく茶をばま福とま
 皆思ををさるるささのさあして緋糸のふくくしを
 多るを福とまじく福といふさのさあして緋糸のふ
 の例よすハ緋福といふさのさあして緋糸のふくく
 したあはるささのさあして緋糸のふくくしを
 する純さハ猪者のきさの西服のさハ純さをまじく
 まひさしてささりつあはねつさのさあして緋糸の
 證古人のさ係糸の随々日純糸福と
 威のささるるあを糸抄抄よまると
 糸緋たどりの緋さの糸あはたをすえあまゆりさ
 く緋の糸をよまて深るハ緋威の糸あまさるささ
 草威中ハ草の緋威はほぎねなるよ糸の字を付
 て糸緋たどりの糸糸糸たどりの苗深の糸糸糸糸
 緋たどりの糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸



を志するべし本草綱目御覽のちらひ参考保元志田草子云俗

弁の如れどし白系を引く袖系どりの下

色は本の花の色より上白系を引く袖系どりの下

二倍をもえぐりて威本條田村の威の體後増後

何れと申す本條田村の威の體後増後

波瀾威ハ二色の糸を以て一色ハ地色なり

一色ハ白を以て二色の糸を以て

波瀾威ハ二色の糸を以て一色ハ地色なり

波瀾威ハ二色の糸を以て一色ハ地色なり

波瀾威ハ二色の糸を以て一色ハ地色なり

波瀾威ハ二色の糸を以て一色ハ地色なり

本條田村の威の體後増後

櫛を威一色ハ白を以て

大まき二色ハ白を以て

きまだれの

斑の文あり

色ハ黒

の糸ハ白

さり

あら

右の

朝日

あら

二色ハ
白の糸を
以て

一色ハ
白の糸を
以て

をけし... 又裳袴... 平治... 大草... 紅裳... 紅下... 耳裳... 袴... 袴... 袴... 袴... 袴...

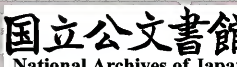
赤も... 一... 何... 黄... 袖... 威... 袴... 袴... 袴... 袴... 袴...

妻白しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
の支帯をきき落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を

肩白しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を

何白しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を

の白のきき落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を
又落しつゝハ袖の下の方を白しつゝハ袖の下の方を



脛を白くするをいふをいふが威肩白と云
 いた威ハ惣神を苗深の糸よけれど一袖も赤
 威よ一して袖の上二脛を白くするを白糸と云くたを
 あり
 妻の白糸とい袖草摺の支摺を云取ハ糸と云
 といふの袖糸と云の支摺を別と云の糸は下
 取と云と云く覆膝をいふと云の括よと云と云あり
 何と云のれど一もつまといをささぐ一好といま
 志と一四張よつまといと云の襪糸と云あるハけとい
 つまといといと云と耳糸をいふといといと云後ハ後
 ありつまといの襪糸は耳糸ハ喙糸を用ふと云

こ一糸ハ草と云のゆいぎの糸を別と云よと云と云
 といふもといといといといといといといといといとい
 と云といといといといといといといといといといとい
 兼良改の天衣従糸は襪のよりと云い一又は或
 ハ取糸或ハ取腰といといといといといといとい
 右威毛の糸ハ皆四張よといといとい右の外氷染
 威ハ音威威麻毛襪雪日威と云を始といとい
 さまといといといといといといといといといといとい
 といといといといといといといといといといといとい
 新抄抄をいふの
 以下六ヶ糸
 大荒目といといといといといといといといといといとい

大あらし今
をけりふ
は同

やしの名之大あらしをれをせせむれのを
きざさふ切るるなり大あらしをり
大あらし同あらしを大あらしををせせむれを
あらしをるをせせむれを大あらしをり
小荒目とりのあり
二枚草の大荒目とりのをれをせせむれを
せせむれをり大あらしをり
古古強力の勇
士をせしあり
今をせの大荒めとりのをり二枚のる一珠の
板金ををせせむれをり大あらしをり
吹く草もれをり

一枚草のせの大荒めとりのをり
今をせの大荒めとりのをり
草子堅義他参考保元義経記保元物語
樹り尚於此

鞍相の歌

あふ相とりのをり
ゆりたる相も草子とりもあり
うりたる相も草子とりもあり
あり相も草子とりもあり
とも云あるべし
の武者鎧の下よまきり
者いふあふべし

図示よれを

包網とつゝの右の孫網を純子孺子或ハ深草よ
て包とたるへ包網とつゝを鏡の網をつつむりて
くほたる後ありあやまりて

右包網は古純よりとる名目之古純よりとる
る名目多し一而用多しとる事
相網は相空相赤地純よりとる包とる金網
ありて名目古純よりとる尚於於抄に記す

相生れ刻の體

相生ハ赤なる言と相刻ハ赤なる言あり人の玉性よ
よりく言凶あり

相生の威毛ハ 木性水生の人ハ黒色火性木性水生の人ハ赤色
土性火生人ハ赤色金性土性火生の人ハ黄色水性土性火生の人ハ白色

何れも言

相刻の威毛ハ 木性金刻の人ハ白色火性水刻火生の人ハ黒色
土性金刻の人ハ赤色金性火刻火生の人ハ赤色水性土性火生の人ハ黄色

吾凶右の言くやありたれどもあつて言凶よ
あつまざるをよとるあり相生の體を若く
たりとも忠義を志す武勇をたげまはる必ま
ざるひをのうべくぞ

四性の體

源氏の黒く平氏の紫色藤原氏の蒼黄橘氏の
黄くを用ひ是ハ 清和天皇の内附園白良房云

勅命をうけしぬりてめは定め給ふもつゝ又
一後子の村上天皇の御天曆年中定めし
しもえけお後しもよせしやうおつゝし
しき記録古書にハ曾てしんじきしりあねだ
しよよししきしよのし性か體とて定し
しあしりあり

雑記

曹の志ころ面頬のしきりあけ體の袖そめしりせ
んおんの板あどの後か板をハ即し體の板といふ
甚な縫あるあしむしぬひの板をハ何事もよく塗
んれし角のさう板も甚な縫を黒くあし

具足の上と
しあむしを
しきりぬひ
るもつゝあ
又ハ襦の縫は
て草の板は
袖の縫は
ちがしき

カフド

體のうしを包む襦あをいおししきぬもろけ裏
しものし草よて包むをえしきぬしりしけ
尚世具足あり正武古制の
しりしけしりしけ
離物しりし事細の威毛し細のれどし毛のしき
しりしけしりし

縫定しりし體の細の射向のしきしきしきしき
しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ
しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ
しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ
あり

しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ
しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ
しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ
しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ
しりしけしりしけしりしけしりしけしりしけ

よらびふぶつ
のニツのあま
くしきをば
のれむたふを
小くそくそま
あり

のをば海の方を流してをせきそんきせきとの
 證の具名に細丸後集あぶのをけ短く證の草
 ざうもきさくたそをくつふありし若き者をくつふも
 まろし又後集のつひをを長くとまふしそん人あり
 候之在後日集若くしてつひの後集ありしを後集を後集あぶの
 書の方よ含まざるた後集のつひありあはききとつひの書
 のつひありききとつひのつひありききとつひのつひあり
 りききとつひのつひありききとつひのつひありききとつひ
 ききとつひのつひありききとつひのつひありききとつひ
 是後集のよらびふぶつをせきせきとつひあり

具名はくつふもよらびふぶつ具名はくつふもよらびふぶつ
 そろしとつひを具名はくつふもよらびふぶつ樂器のを
 そく佛あつひの具名はくつふもよらびふぶつをいふ
 あり具名はくつふもよらびふぶつ具名はくつふもよらびふぶつ

伊勢武者と
 表記は作者
 符ともあり

字之物のくつひ候ひつけめあきをそくといふ之
 軍陣の具名はくつふもよらびふぶつ大丸のをよらび
 とつひ平侍のを具名はくつふもよらび又一つよ昔のをよらび
 とつひ直世のをくつふもよらび又一つありけあ後何れ
 わも非之後集年中初より御鎧白糸是毛被管
 中ノ宿老兩人シテ持テ出ル時役人出向テ土手勤スウハテキン
 人御具足ノ右ノ方ヲ受取トあり證もくくそく
 とつひくつひの證はくつふもよらび大將平侍の系列あり若今のの
 別ありききとつひをまろし

伊勢武者の皆維れど一の證はくつふもよらびの細代よか
 うりたるがしき新平家物語よるし昔平家の軍



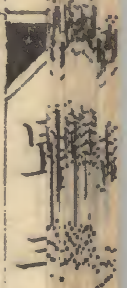
つふふ又まを
白見黨とあり
又味の七字を
かゝるふがく
をかりりうか
とあり白見黨
ハ伊世の團白見
とふふ布の々
あり

兵部威の禮をてや治門よちがけを又て修置
仲綱治を修れりよりみくく之治川よ氷菓といふ
あるよのよせく緋れど一をよめる歌は歌よすりて
後人少多威といふ威毛を修り出せり仲綱う歌を
緋れど一少菓治を修れり威よハあり
昔具足南世とてくくくくむうーかそくハあり
あるー東は後島ありてせー禮のゆへ南世のふく
くくハ後果細ゆあどの形のごとく招權を用おとて
ちの細よて引合を治たし是障子の板せんあ人のい
鶴尾板逆板あどもあく草むり七板下り細を二つよ
まらやうよして甲も吹五ーあきもあり吹五ー五水

を代のよふ
のふそくの
中へ服い
物ありの
くせあ
くたのふ
よして
たか
あ世ハ
たくの
まら

又ガ一是ハ應仁年中の大乱をくあつきく
より禮のゆり板もくくのぬまよまうせてゆりー緋
よららひよ昔ありーくくくく後筒再洋舟のくまん
ありーはくくああくくああをゆりーくくくく
昔ありーはくく障子板そのおのあをもたふま
たふよらして昔禮よくくくくくくくく馬故
實礼よかそくくを人のいんあかん付おてゆり
あ世のくそくああくくくくくくくくくく
くくくく書無仁以後のくああああ世のくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
昔のくくくくくくくくくくくくくくくく

申差ちるのり筋二たふを族繼よぬかべー
 ちりよくくちくよ細く竹を削り入る下のり
 りよの細き組をへくはよあくや目さねねやよ
 組の筋を曹の吹匠一の月つる筋ありを筋よ
 育る之家のぬあるべーきさのまを天三寸と竿をき
 き天七寸あり
 右の竿ハ筋よそ作るべー一本きの竿ハ筋取の附
 とあり又二寸さるる筋末の圓の如く三寸を削る
 小差下のりきき一尺三寸をくりりぬ寸ぬるての本
 を削り入る筋よそつと藍草よきく繼らむ
 べーよも藍二のよ



琢堂藏

右銘文筋の附ハ文令銀精好の附ハ黒字を用る
 あり初後の下家の後よべー小差は是の圖末よ
 竿き天七寸姓のよき竹を削りてさべー藍草
 むとんがうよむきとん 圖末よは
 右の竿ハあよあるべーとてと一本きのさか
 を用るは竿の筋よまうとる初たふ一尺の差は
 さそのの面よ厚く七寸と
 差は有るよりゆひめのせんをあかを指へあま
 あり仲の筋ハ射向のちへあまをむむと
 け傳よ日ちの差さるる一の筋文七星九耀日輪
 其八宿梵天帝釈摩利支天よ限りくる定法

よあしをて教身才をえんかへきむの笠をちりあね
ハ銘文又ハ紋あるりハ大将のふよまうせ何あり
とも用ひらるるべし色のりも定るは好よねを
べし袖襖も笠履も袴軍勢一様よまきべし
まん字の式け字の麻利支天の字の二書よ胸板よ
よハまん字のをのこをん字の可け字の太日の字の
三書よ右の袖よきりく字をちんきりく字の
け字の阿弥陀又大威の字の次よをし付よはん字の
のこをのこをし付の才よりて魚天造の正よ一字
こんろんをちんホウ是令編ん右日の字あり次よ
面よりまのころよ不動の咒をのこをんセン氣也と是

むろのくらん

不動の字のけ時をまままき
不動の字のけ時をまままき
同動傳のり右の袖よ魚ハ矢を魚ハ幣を拵てた
よりお後ひやのり右の伊勢方祓えハ懐大書
薩を動傳りし次よ右の袖氏神を動傳りし一書
由動傳相付の才より梵天帝釈曰夫天王七星の
耀二八宿を動傳りし次よ由く矢と幣とを拵
せくちんくしナカトミを解きのりハ魚被甲次よ
中ナカトミ後の後をちり右のり右の魚被甲次よ
送るまをん又甲の加持の附被甲護身の布咒この
傳も初ふへきしも初ふまが
きしも初ふへきしも初ふまが
具足こののさのり神利夫夫と書く一字のりきりく

牙六 ちほ

牙七 ちほ

牙八 ちほ

牙九 ちほ

牙十 袴

牙十一 ちほ

牙十二 ちほ

牙十三 鏡

牙十四 ちほ

牙十五 ちほ

牙十六 袴

牙十七 鏡

牙十八 袴

牙十九 ちほ

牙二十 刀

牙二十一 刀

牙二十二 征

牙二十三 ちほ

牙二十三 征

牙二十四 弓

牙廿五

母屋結を無びぎあしハ征矢を有るて後かご

扇をばよりひの門合せよさし又ハちほ又むきび

自庵

鞆ハちほをちほ後縁楯のむちさし

さしちほ一は箱もむちさしちほのあねどもちほ

のけごのちほ又ハ腰の者の腰よさせちほもち

一はむちさしのちほ

禮着月の次牙法後あまども次牙初まこちあり

威ハちほちほのちほちほちほちほちほちほ

たもむちさを用ちほ一ちほの次牙をちほちほちほ

あまざねばこん様し〜くま月よむま〜らりあり
 よらひを〜めやく〜るるりも武藝の一ツ
 大お出陣の附いおぢんのつらひあり、武の者よして三
 秋多〜くは後ありけ附甲冑をま〜して麻札よ〜
 をうけて三秋多〜くは後終ておきあふ附中門よ〜
 ちかたき〜征矢有ひあ〜りま〜くは〜く〜をい大
 よ持〜せ〜る〜くは〜後〜く〜出陣の附の〜
 大お軍出陣の附籠さ〜、度あよゆ〜後よ由の
 後人由冑を弓よよ〜てたのむ〜を〜つ〜て吹〜
 より後の才の法よたの〜を〜つけた神の因たの〜を
 け〜い〜く〜も〜を〜く〜と〜く〜を〜後〜た〜の〜よ〜系〜り〜して〜ま〜

ま〜る〜く〜ふ〜ま〜ひ〜の〜は〜く〜竿〜と〜同〜お〜う〜初〜よ〜る〜
 をたの才〜ま〜り〜を〜べ〜く〜く〜後〜を〜ん〜る〜く〜
 由冑を大およま〜せ〜や〜り〜る〜を〜よ〜せ〜由の法を
 し〜き〜く〜たの〜あ〜は〜神を〜く〜せ〜たの〜よ〜ま〜て〜たのび
 の法を〜き〜く〜と〜り〜て〜ま〜く〜せ〜は〜大お弓を〜ま〜り〜よ〜え
 さ〜く〜たの〜も〜を〜び〜法〜の〜る〜を〜用〜よ〜入〜く〜ま〜る〜い〜
 又由の後人弓矢を帯〜く〜る〜ひ〜弓をた〜く〜五〜
 う〜よ〜ぬ〜き〜入〜く〜由冑を〜ま〜い〜但〜形〜よ〜う〜り〜て〜
 る〜よ〜り〜ま〜り〜用〜る〜事〜を〜弓〜を〜持〜び〜馬法〜を〜
 け〜い〜せ〜く〜は〜は〜あ〜よ〜て〜ま〜く〜の〜思〜ひ〜見〜ふ〜り〜あり
 は傳よ日出陣の附る〜く〜又改志〜り〜を〜か〜ら〜く〜の

柄とつゝ甲の甲の一文字よりつゞて大體も若くは細く
 武家の文字を代るゝの文字を去つてそを文は
 自てさつゝの形況をもあけく柄を去るゝりたる
 へはとゞつゝは由の腰ハ腰の字を月とてよま
 去りけちやう板の形様板と去るゝり様板と去り
 る形とてあし只やとてうよま様板と去り
 去るゝり文字を薄紙とてぬくよま様板の
 去るゝり皆を代るゝ人の形様とて入を速と考へ用
 び物よりて文字の初なるあしやとて去るゝり
 去るゝりよま文字を去るゝり

フシナワノ草ノ圖



品草ノ圖



同キニ返シタル草ノ圖



小カクラノ草ノ圖



同キニ返シタル草ノ圖



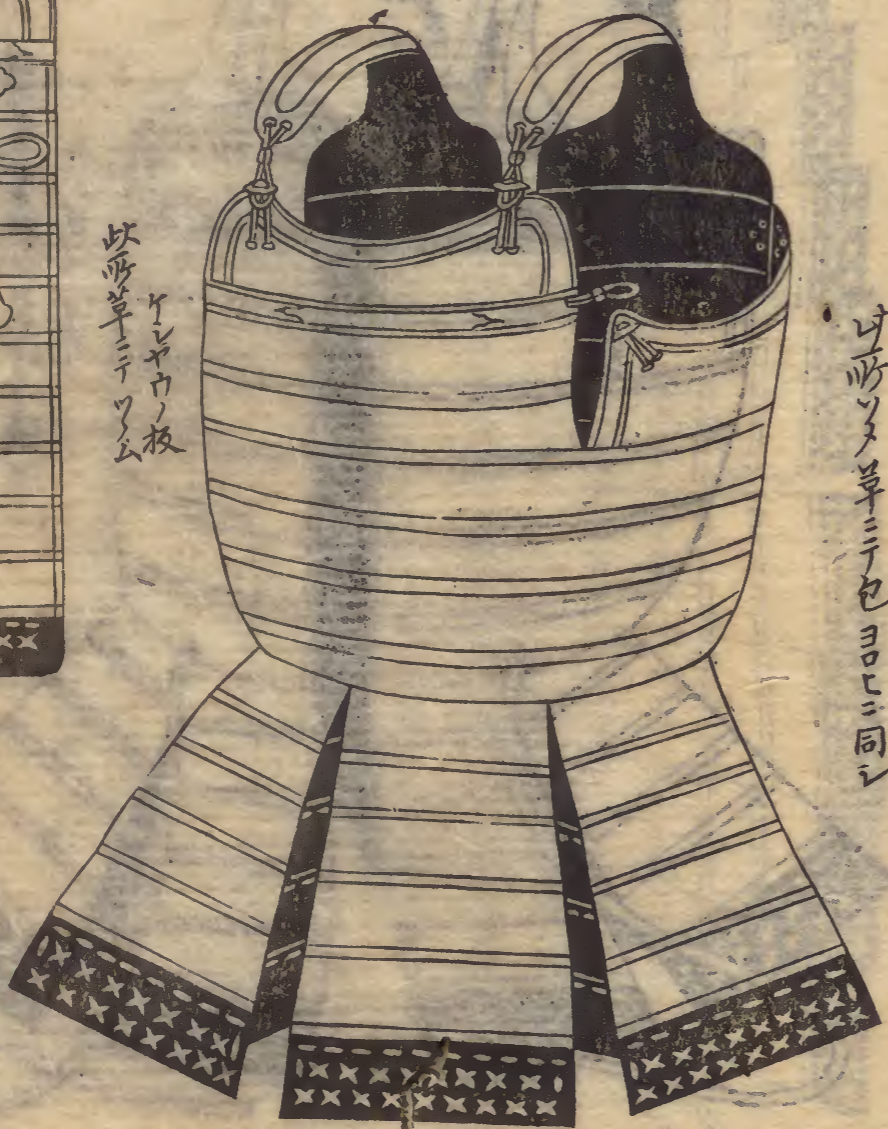
アイ白地ノ草ノ圖



振子



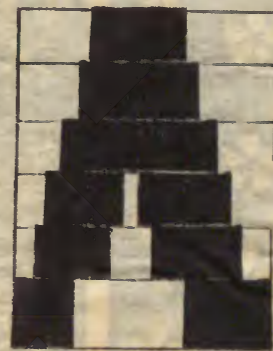
ケレヤウノ板
此所草ニテワム



ケレヤウノ草ニテ包ヨロヒニ同シ

小孔引ヨロヒノ如シ

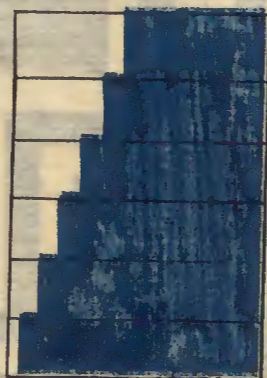
ラモタカラドシノ図



カシトリ威ノ糸ノ図



シキメノ図

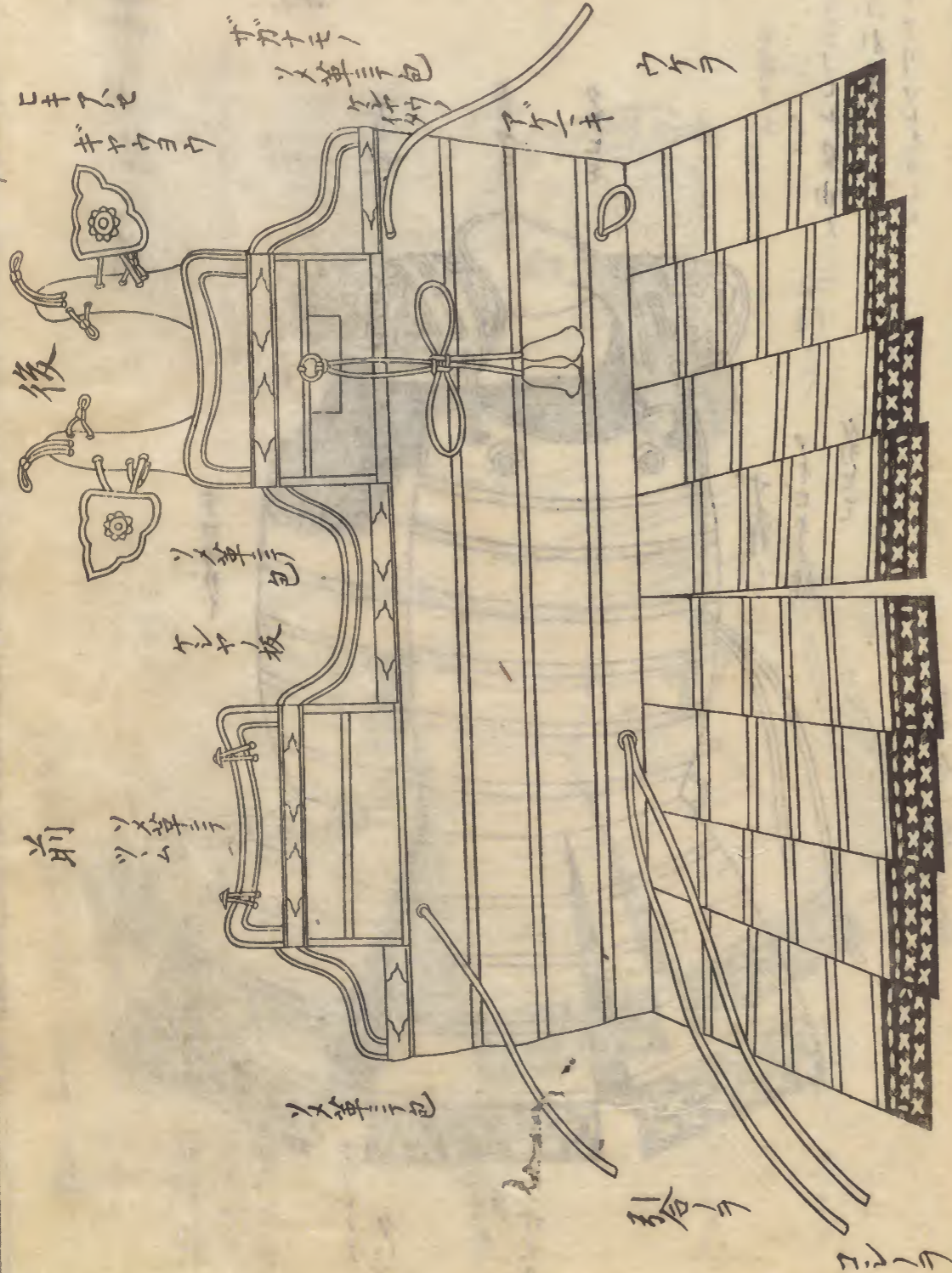


サカラモタカノ図

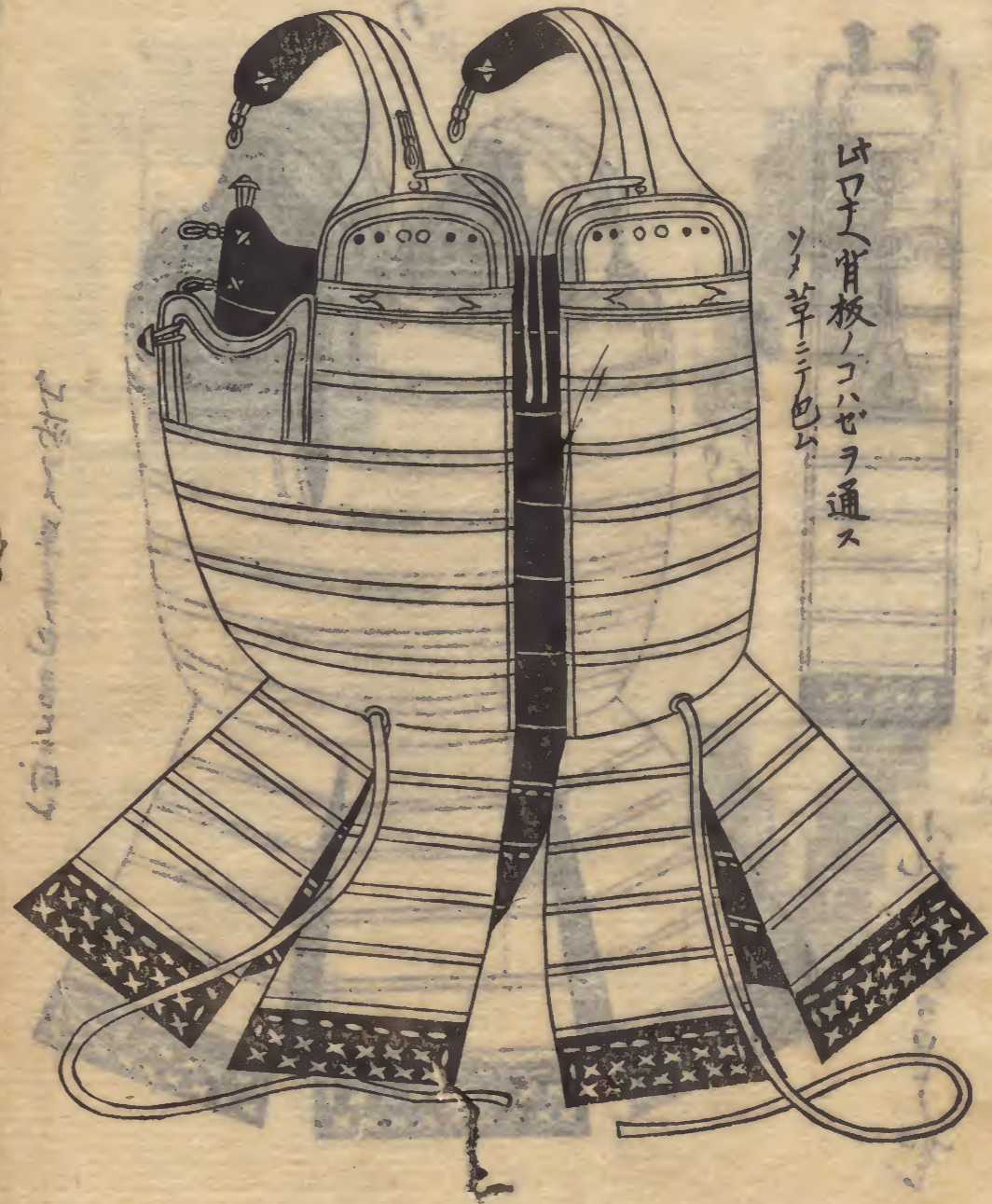


珍堂

胴丸 小札引目七如之



同
後



ハロ大背板ノコハセラ通ス
ソノ草三ッ包

當世具足之図

前

カタアテニコヒレヲ袖ノ
ゴトリハ札毛引ニシテ
付ケルモアリソレモコヒレ
ト云



カタアテ
タカヒモ
エリ廻リ
カタアテ
コヒレ
テウツガイ
ドウゼリホツテトモ
クリシメノ緒
近代草
ズリラゲ
サント云
クリシメノ
クシ
ズ前ノ
クサズリ

後



コハゼ
タカヒモ
合引ノヲ
キコウスイ
ガツタリ
ラシ付ノイタ
ウケツ
引合ノ緒
カケラ
ラシ付ノ馬キノ
クサズリ
クリシメノクシ
引敷ノ草
スリ
同右
ラシ付ノ射向ノ
草ズリ

鉄洞

ワタカニ
革ナリ

前



テウツカナシ
打ノベナリ

カケラ

包胴ト云ヲヨロヒノ胴ヲ後

包ムコト心得ルハ誤也ヨ

ロヒハ弦バシリトテ前ノバカリ深

革ニテ包ナリ何レノ鎧ニモ弦走ナキ

ハナレ

物躰ウルシヌリ也又是ヲ
ドンヌシユスソメ革ニテ包
タルヲ包胴ト云ナリ前後
尤右物躰ヲ包ナリ

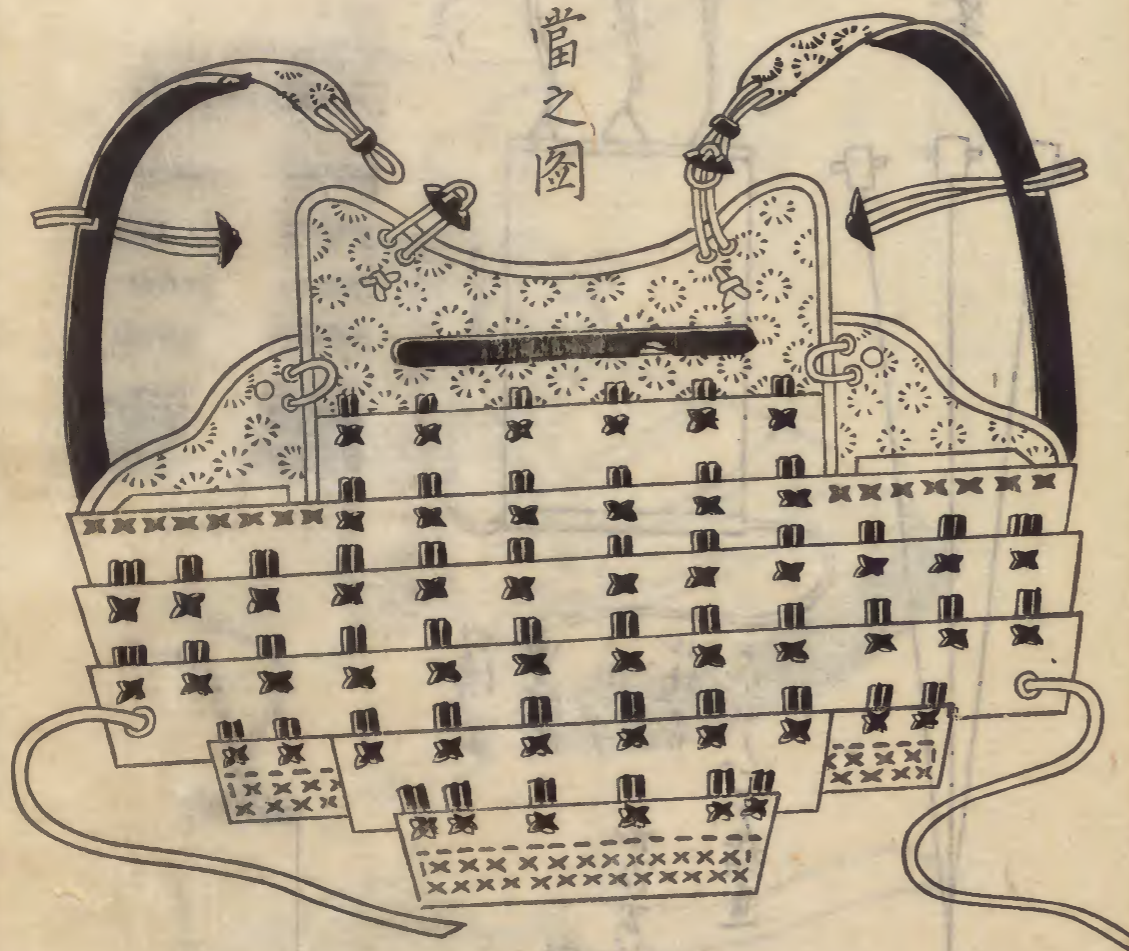
カケラ

ウケラ

ウケラ



腹當之圖



鉄鉢之圖ト云ハ非也平

首ハ削也

是ヲハツブリ



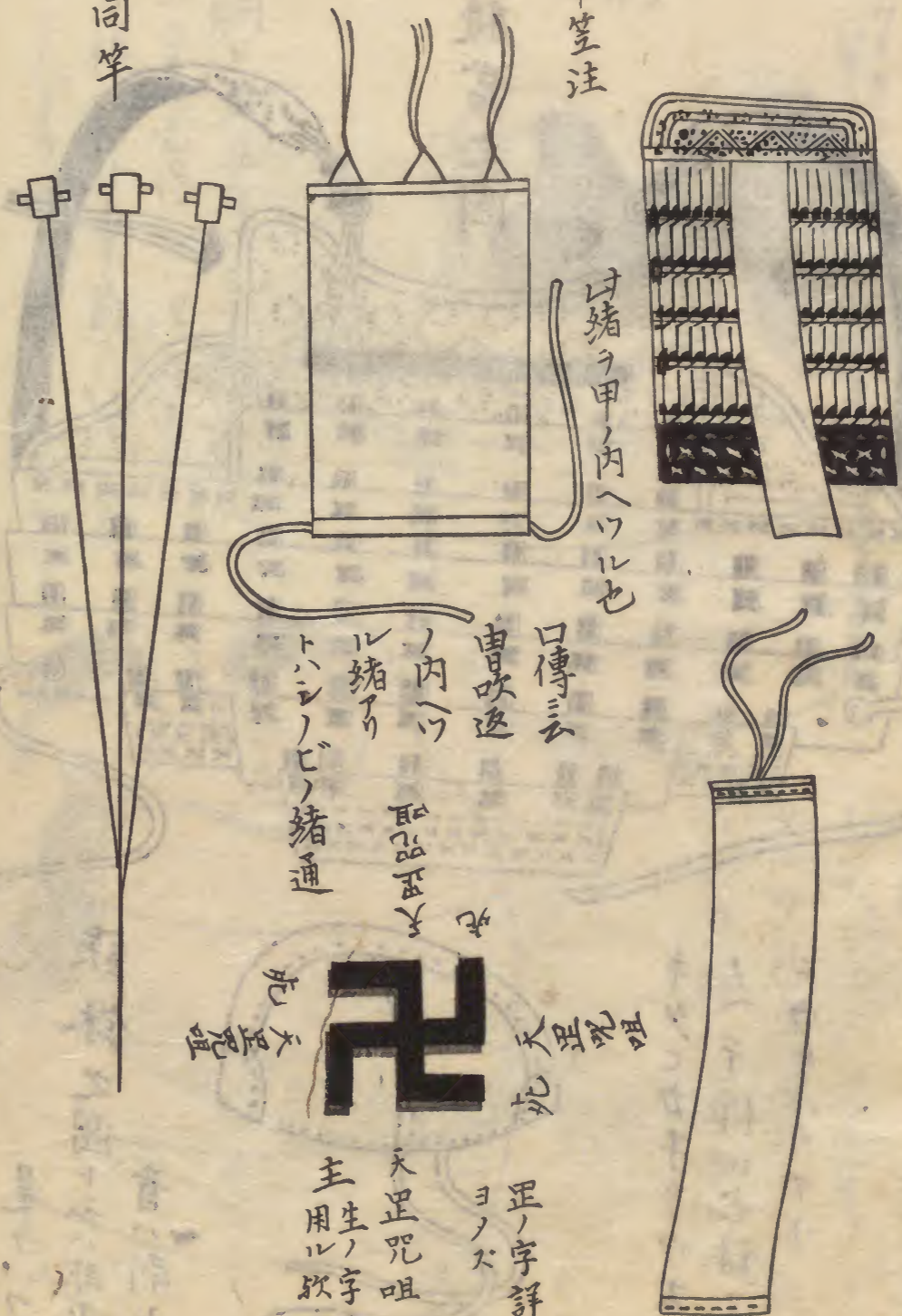
キタヒカ子ヲウスリ
ノベテ作ル也鉢ノ内
ニウケバリアリ

笠注



同竿

中笠注

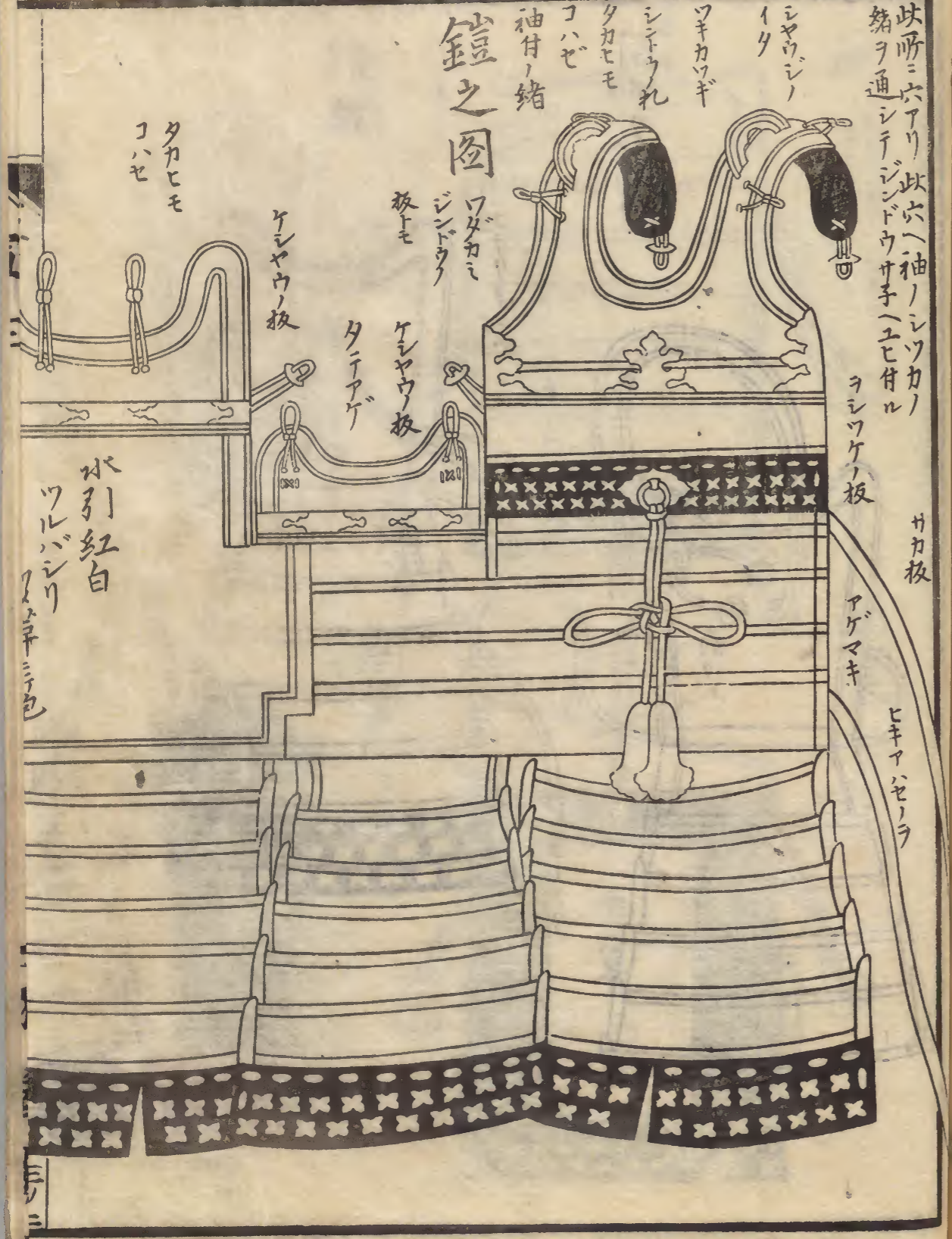


中笠注



珠堂藏

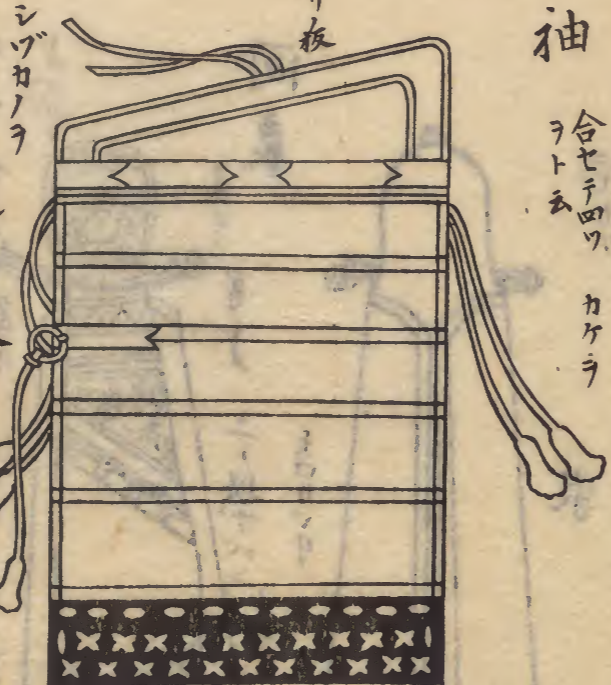
鎧之図



三三



キウビノ板表

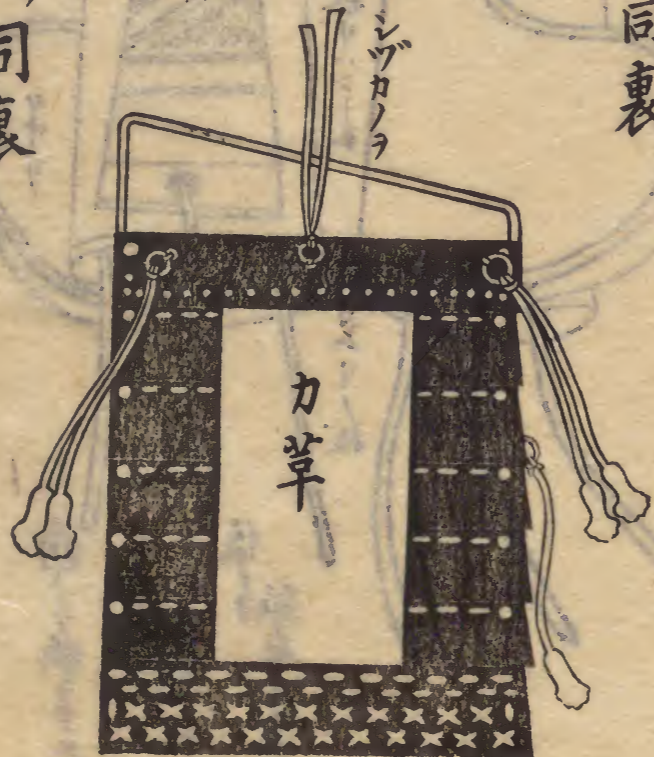


袖

合セテ四ツ
ヲト云
カケラ



同裏



同裏

同アツル図

股楯

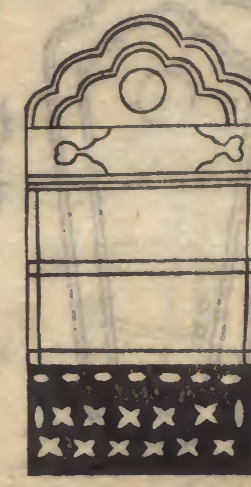


軍

ハ
尺
三
寸

セシダシノ板表

同裏



小手表袋



小手表

コハゼ

クサリ

クサリ

トマスガワ

同裏

クサリ

ニノ板サバシト云

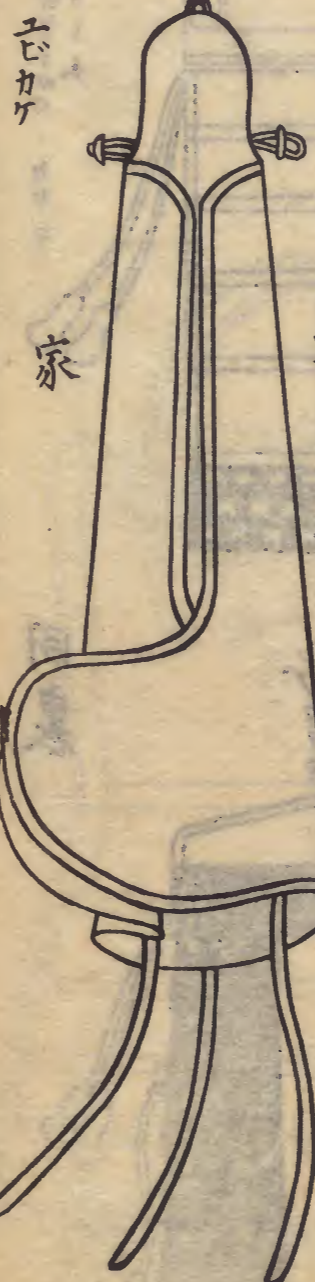
一ノ板サバシト云

カムリノ板

後ノラ

中ノラ

前ノラ



ニヒカケ

家

